

第3章 年間指導計画作成の視点と例示

1 実践事例から見いだされた二つの視点

この項では、実践事例から分かった言語活動の充実を図る年間指導計画作成の視点をまとめます。

(1) 段階を追って力を身に付けさせる

地理歴史、数学及び理科の実践からは、生徒に考えさせるための様々な指導の工夫が見られました。いずれも、それぞれの教科・科目の特性を踏まえ、考えさせるための視点を与えた上で、表現させていました。

例えば、地理歴史では、歴史的事象の意義を記述させる際に、授業者が何を記述させるかを明確にする必要がありました。その上で、「キーワードを与える」、「キーワードを裏付ける歴史的事象を考えさせる」ことや「ほかの生徒の記述を参考にさせる」ことによって、生徒が単元のまとめの記述に取り組むことができました。

数学では、「順を追って考えられるようなワークシートを作成する」ことや「クラスを二つに分けて、異なる問題に取り組ませた後で、初めて説明を聞く生徒たちに、分かりやすく説明させる」ことによって、生徒たちは難しい問題であっても、考えて取り組んでいることが分かりました。

また、論理的に説明する力を高めるため、いくつかの小グループを二つの大きなグループに分け、それぞれ異なる問題に取り組ませた後、一つの小グループを指名し、全体に対して解法等を説明させました。この小グループが属さない大グループの生徒にも分かりやすく説明するために、小グループでの話し合いを重視したことで、論理的思考力や表現力を高めることができました。

さらに、理科においては、「課題を細かく区切って考えさせる」や「実験結果の予想については、選択肢を与えて二者択一で選ばせ、選んだ理由を説明させる」ことによって、生徒たちがより難しい課題に取り組むことができおり、ワークシートの記述の観察からも、理由を正しく記述できていました。

以上のように、教科・科目の特性を踏まえ、順を追って考えることができるような工夫を行うことにより、生徒が自らの考えを表現することができます。そして、生徒が考えることができるようになったならば、次の単元では、より難易度の高い課題を与えることも考えられます。また、考えさせる視点を与えずに、いきなり課題に取り組ませることもできます。

年間を通して、段階を追って生徒に力を身に付けさせることを意識して、年間指導計画を作成することの重要性を実践事例から見いだすことができました。

(2) 繰り返すことで慣れさせる

国語及び英語（専門教科）の実践からは、繰り返すことで言語活動に慣れさせるための指導の工夫が様々見られました。

国語では、2回の単元で、評論文の要約を行わせました。1回目の単元において、評論文の内容を段落ごとに区切った上で、要約を行わせました。2回目の単元においては、「論旨を的確に読み取り、自らの考えを深める」という単元目標を定め、文章全体を大まかに捉えさせ、論旨を的確に理解させた上で、要約を行わせ、単元の最後では、自らの考えを深めさせました。

英語（専門教科）では、1回目の単元において、ほかの生徒の考えを踏まえ、自分の考えを表明させました。2回目の単元では、単元を通じて要旨に直結する質問を投げ掛けて考えさせた上で、ほかの生徒との意見交換を通じ、その正当性や合理性を判断させ表現させることで、課題に対する自分の考えを深めさせました。

このように、同じ言語活動であっても、繰り返すことで生徒に要約や意見表明といった言語活動に慣れさせることができ、より考えを深めさせることもできます。年間指導計画作成の際には、同じ活動を繰り返し慣れさせながら、後の単元でさらに考えを深めさせることを考えることが重要です。

実践事例で見いだされた二つの視点に留意しながら、次の項では、言語活動の充実を図る年間指導計画例を示します。

2

言語活動を位置付けた年間指導計画例について

(1) 年間指導計画例について

本冊子で示した言語活動の充実を図る年間指導計画例は、各学校において、次年度の年間指導計画作成の際の参考となるよう、思考力・判断力・表現力等の育成を図る計画的・継続的な言語活動の指導内容を具体的に示したものです。そのため、観点別学習評価の4観点（国語は5観点）のうち、「思考・判断・表現」に焦点を絞って作成しており、各単元に示した言語活動例は、その単元で考えられる様々な活動から、一例を示しただけに過ぎません。

こうしたことから、神奈川県教育委員会が平成25年1月に公表した「学習評価の手引き」（神奈川県教育委員会 2013）で示されている年間指導計画の例とは様式が異なっています。

(2) 年間指導計画例の概要

国語科・地理歴史科・数学科・理科・外国語科の5教科において、各1科目、言語活動を位置付けた年間指導計画例を作成しました。言語活動を位置付けた年間指導計画例の概要は次のとおりです。

教科	科目	標準単位数	年間時間数	詳細
国語	現代文B	4単位	140時間	43～44 ページ
地理歴史	世界史A	2単位	70時間	45～46 ページ
数学	数学I	3単位	105時間	47～48 ページ
理科	物理基礎	2単位	70時間	49～50 ページ
外国語	コミュニケーション英語I	3単位	105時間	51～52 ページ

(3) 年間指導計画例の記載内容

1 科目の目標

- 学習指導要領より、各科目の目標をそのまま記載しています。

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数
----	-----	----	--------------	-----

1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えを適切に伝えたり理解する基礎的な能力を養う。

2 評価の観点の趣旨

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。

3 年間指導計画作成のねらい

- 「外国語表現の能力」を育成するために、読んだ内容に基づき、自分の考えを話したり、書いたりする表現活動を各単元に取り入れます。4技能のうち「ア 聞くこと」や「イ 読むこと」に関わる指導は従前と同様と見做すこととし、学んで得た知識を活用し、「ウ 話すこと」や「エ 書くこと」を通じて発信することを目指す。1年のまとめとして、スピーチを行うことを目標としています。その中で、「エ 書くこと」の言語活動を中心に、段階を追って繰り返し指導していけるように年間指導計画を作成します。

4 活動の分類の説明

- 【ア 聞くこと】事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を手に依るよう音読する。
 - 【イ 読むこと】説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。
 - 【ウ 話すこと】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを伝えたり意見の交換をしたりする。
 - 【エ 書くこと】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを表現したり書く。
- (文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 英語編』 開隆堂 pp.13-15 より引用)

5 年間指導計画例 (表) = 「外国語表現の能力」、(理) = 「外国語理解の能力」

単元 (題材)	単元における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の評価規準	言語活動【活動の分類】
Lesson 1 Communicating around the world	英語で自己紹介をして、相手の質問に答えることができる。 (表) 英文を読んで、語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に読み取ることができる。(理)	○ 紹介する内容についておき、3～4人グループになり、英語で自己紹介をし、質問に答える。 ○ 異文化理解の観点から読み、書いて20語程度の英文で表現する。

5 年間指導計画例

単元 (題材)

- 「国語」、「外国語」においては、学習指導要領の指導事項を踏まえ、単元を想定してあります。
- 「地理歴史」、「数学」及び「理科」においては、学習指導要領の各科目の「2 内容」を記載してあります。

評価規準

- 「国語」及び「外国語」については、単元全体の評価規準です。
- 「地理歴史」、「数学」及び「理科」については、「思考・判断・表現」の評価規準の一例を挙げています。単元における「思考・判断・表現」の全ての評価規準を示したものではありません。

2 評価の観点の趣旨

- 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 (高等学校) ~新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて~』(国立教育政策研究所 教育課程研究センター 2012 教育出版) より、各科目の「評価の観点の趣旨」を、そのまま記載してあります。
- 各教科の「思考・判断・表現」に当たる評価規準については、黒太線で示してあります。

3 年間指導計画作成のねらい

- 年間を通して、どのような言語活動を行い、思考力・判断力・表現力等を育成していくか、作成のねらいを記載してあります。

4 活動の分類の説明

- 「5 年間指導計画例」に記載した「言語活動」を、各教科・科目の特性を踏まえ、どのように分類したかを説明しています。
- 「国語」及び「外国語」においては、学習指導要領に示された各科目の指導事項を記載してあります。
- 「地理歴史」、「数学」及び「理科」においては、実践事例から明らかになった「段階を追って力を身に付けさせる」ことや、「繰り返して慣れさせる」ことを具体的に指導するために、各教科・科目の特性を踏まえ、質的に分類し内容を説明しています。

(4) 各教科の年間指導計画例

教科	国語	科目	現代文B	単位数	4単位
----	----	----	------	-----	-----

1 科目の目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

3 年間指導計画作成のねらい

- 年間指導計画を作成するに当たっては、基礎的な事項の指導を繰り返し、その指導によって培われた技能が、それに続く指導の中で発展的に応用されるような、単元間のつながりを意識しました。
- 各単元では、重点的に指導する指導事項を絞って、生徒に身に付けさせたい力を焦点化しますが、単元「サブタイトルを考える」のように「文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる」という評価規準を定め、【指導事項 ア】を分割して指導するなど、生徒の学習段階に配慮し、段階を追って指導する単元構成を考えました。
- 年度の後半では、さまざまなテーマの文章を読むことの指導を中心に、生徒が自ら課題を見いだして考えを深め、発展させる能力の育成を目指しています。

4 活動の分類の説明

- 【指導事項 ア】文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。
- 【指導事項 イ】文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- 【指導事項 ウ】文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- 【指導事項 エ】目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。
- 【指導事項 オ】語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。

(文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 教育出版 pp.57-59 より引用)

5 年間指導計画例 (話・聞) = 「話す・聞く能力」、(書) = 「書く能力」、(読) = 「読む能力」

	単元(題材)	単元における「話す・聞く能力」、「書く能力」及び「読む能力」の評価規準	言語活動【活動の分類】
12時間	サブタイトルを考える	独自の着想による個性的な評論を読んで、要旨を的確にとらえている。(読)	○ キーワードやキーセンテンスを手掛かりにしながら評論の要旨をとらえ、標題にサブタイトルを付けることによって内容を分かりやすく示す。 【指導事項 ア】
15時間	配役を考える	小説を読んで、人物、心情の描写などを的確にとらえている。(読)	○ 小説を読んで登場人物の特徴を捉え、作品をドラマ化(映画化)するならどのような配役がふさわしいか考える。 【指導事項 イ】
7時間	感銘を受けた本を紹介する	自分の感動が聞き手に伝わるように工夫をし、効果的に表現している。(話・聞)	○ 今まで読んだ中で、自分が感銘を受けた本をブックトーク形式で紹介する。 【指導事項 エ】

	単元 (題材)	単元における「話す・聞く能力」、「書く能力」及び「読む能力」の評価規準	言語活動【活動の分類】
15時間	文章を添削する	ほかの生徒が書いた文章を読んで構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価している。(読)	○ 環境問題を扱った評論を読んで、ほかの生徒が書いた「ゴミの収集を有料化すべきか」という題の意見文を添削する。 【指導事項 ア】
13時間	詩歌を味わう	作品に込められた作者の心情を的確に読み取り、詩歌の表現を味わっている。(読)	○ 詩歌の表現を味わい、それぞれの作品に込められた作者の心情について話し合う。 【指導事項 イ】
8時間	思いを伝える	自分の考えを読み手に適切に伝えるために、これまで学習した内容を役立てながら、効果的な表現で文章にしている。(書)	○ これまで学習した内容に関連付けて、自分の考えを自由な形式で表現する。 【指導事項 エ・オ】
16時間	科学技術は人間を幸せにするか	現代社会の問題を扱った評論を読み、科学技術と人間や文化の在り方について考えを深め、発展させている。(読)	○ 現代社会の問題を扱った評論を読んで科学技術や文化の在り方について考え、「科学技術は人間を幸せにするか」という題で自分の意見をまとめる。 【指導事項 ウ】
13時間	生きていることの意味	小説を読んで人物の心情の推移を的確にとらえ、人生に対する認識を深め、発展させている。(読)	○ 小説を読んで生と死について考え、「生きていることの意味」という題で自分の意見をまとめる。 【指導事項 ウ】
13時間	戦争はなくなるか	評論を読んで、近代の構造と本質についての認識を深め、発展させている。(読)	○ 近代社会を論じた評論を読んで自己と他者の関わりについて考え、「戦争はなくなるか」という題で自分の意見をまとめる。 【指導事項 ウ】
14時間	目的は手段を浄化できるか	場面の展開に即して作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さについて理解を深め、発展させている。(読)	○ 小説を読んでエゴイズムについて考え、「目的は手段を浄化できるか」という題で自分の意見をまとめる。 【指導事項 ウ】
6時間	なぜ自殺をしてはいけないのか	いのちの大切さについて、様々な情報を分析、整理して作成した資料を利用したり他の生徒の意見を参考にしたりして自分の考えをまとめ、効果的に話している。(話・聞)	○ これまで学習した文学的な文章(「I was born」「永訣の朝」「城の崎にて」「ころも」などを想定)を再確認し、「なぜ自殺をしてはいけないのか」という題で話し合う。 【指導事項 エ】
8時間	課題を設定して論文を書く	これまで学習した内容に基づき設定した課題について、様々な情報を分析、整理して作成した資料を利用して、適切な表現で効果的に文章を書いている。(書)	○ これまで学習した内容に関連して関心を持った事柄について課題を設定し、作成した様々な資料に基づいて論文を書く。 【指導事項 エ・オ】

教科	地理歴史	科目	世界史 A	単位数	2 単位
----	------	----	-------	-----	------

1 科目の目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代社会の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

3 年間指導計画作成のねらい

- 「持続可能な社会への展望」の単元で、年間のまとめとして、現代社会の諸課題を歴史的観点から考察させ、論述させます。そのため、以下の「ア 情報の読み取り」から「エ 発表・記述・論述」までの指導を、段階を追って繰り返し行うことにより、科目の目標に迫る年間指導計画としました。
- 年間指導計画の前半では、地図・図表や年表などから「ア 情報の読み取り」を行かせた後、「イ 比較・分類・整理」や「ウ 歴史的意義の考察」を繰り返します。後半では「ア 情報の読み取り」や「イ 比較・分類・整理」を行かせた後、「エ 発表・記述・論述」を行かせ、年間を通じて段階を追って指導し、論述を行わせることができることを目指す計画としました。

4 活動の分類の説明

- 【ア 情報の読み取り】 年表・地図・その他の資料から、必要な情報を読み取る活動
- 【イ 比較・分類・整理】 読み取った情報を表や箇条書きにするなどして整理する活動
- 【ウ 歴史的意義の考察】 整理された情報を基に、歴史事象の役割や影響等について考察する活動
- 【エ 発表・記述・論述】 考察した内容を発表したり、文章で記述・論述したりして表現する活動

5 年間指導計画例

	単元(題材)	「思考・判断・表現」の評価規準	言語活動【活動の分類】
1 時間	(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史	歴史の舞台としての自然環境と人類の活動の相互作用について考察し表現している。	○ エジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明、中国文明等が発生した地域の自然環境について、グループに分かれて、地図や写真から特徴を読み取り発表する。 【ア 情報の読み取り】 ○ それぞれのグループの発表から、その共通点や相違点についてワークシートに記入する。 【イ 比較・分類・整理】
1 時間	イ 日本列島の中の世界の歴史	日本列島の中に見られる世界との関係や交流の事跡から、日本の歴史と世界の歴史のつながりについて考察し表現している。	○ 日本列島を訪れたり、日本列島から海外に渡ったりした使節や僧侶、商人等について、グループごとに1人(使節)を選び、年表や地図などを用いて渡航のルートや交流の事跡をまとめて発表する。 【ア 情報の読み取り】 ○ それぞれの使節や僧侶、商人等の歴史的役割や社会的影響についてワークシートに記入する。 【ウ 歴史的意義の考察】
11 時間	(2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明	ユーラシアの大部分を支配したモンゴル帝国の領域を理解し、各地に形成された諸文明の特質について考察し表現している。	○ モンゴル帝国の最大領域に現在含まれる国名を調べ、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパの各地域に分類する。 【ア 情報の読み取り】 ○ それぞれの地域の自然環境、生活、宗教の特質について、表にまとめて比較することにより、それぞれの文明の相違点をワークシートに記入する。 【イ 比較・分類・整理】

	単元 (題材)	「思考・判断・表現」 の評価規準	言語活動【活動の分類】
10 時 間	イ 結び付く世界と 近世の日本	大航海時代以降、世界の 一体化が進む中で、ポルト ガル人やオランダ人の 来航が日本に与えた 影響について、考察し表 現している。	○ ポルトガル人やオランダ人の来航によって、どのようなも のや技術が日本にもたらされたかについて、グループごとに 調べて発表する。 【ア 情報の読み取り】 ○ それぞれのものや技術が、現在の日本でどのように受容さ れているかを考え、各自ワークシートにまとめる。 【ウ 歴史的意義の考察】
10 時 間	ウ ヨーロッパ・ア メリカの工業化と 国民形成	18 世紀後半～19 世紀の ヨーロッパ・アメリカに おいて、工業化と国民国 家の形成が進行したこ とについて考察し表現 している。	○ イギリス産業革命が世界に与えた影響について、グループ で話し合い、付箋紙等を用い分類・整理する。 【イ 比較・分類・整理】 ○ グループでの作業結果を基に、各自で産業革命の影響につ いて考察し、200 字程度で論述する。 【エ 発表・記述・論述】
8 時 間	エ アジア諸国の変 貌と近代の日本	18 世紀後半～19 世紀ま でのアジア諸国の変貌 を捉え、世界の一体化と 日本の近代化について 考察し表現している。	○ ヨーロッパ諸国によるアジア諸国の植民地化・従属化の動 きと、日本の開国と明治維新及びその後の近代化の動きを年 表に記入する。 【ア 情報の読み取り】 ○ 年表の対比により、アジアの中での日本の近代化が果たし た役割について考察し、ワークシートに記入する。 【エ 発表・記述・論述】
5 時 間	(3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社 会	19 世紀後半～20 世紀前 半の科学技術の発達と 産業構造の変化を背景 とした、国際的な移民の 増加について考察し表 現している。	○ 世界における移民の流れについて、ヨーロッパ、アフリカ、 インド、中国、日本からの主な移民先を表にまとめて整理す る。 【イ 比較・分類・整理】 ○ それぞれの移民の要因について考察し、ワークシートに記 入する。 【ウ 歴史的意義の考察】
10 時 間	イ 世界戦争と平和	二つの世界大戦の特徴 を捉え、戦後の国際政治 の動向と平和の意義に ついて考察し表現して いる。	○ 第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因、性格、被害状況 等についてまとめ、対比する。 【イ 比較・分類・整理】 ○ それぞれの大戦後の国際政治の動向や平和に向けた動きに ついて考察し、ワークシートに記入する。 【エ 発表・記述・論述】
6 時 間	ウ 三つの世界と日 本の動向	第二次世界大戦後の米 ソ両陣営の対立が、世界 に与えた影響について 考察し表現している。	○ ソヴィエト連邦を中心とする社会主義陣営とアメリカ合衆 国を中心とする自由主義陣営の動きについて、年表にまとめ る。 【ア 情報の読み取り】 ○ 両陣営の対立が、世界に与えた影響について考察し、ワー クシートに記入する。 【ウ 歴史的意義の考察】
6 時 間	エ 地球社会への歩 みと課題	1970 年代以降の市場経 済のグローバル化が、現 在の世界に与えている 影響について考察し表 現している。	○ 日常生活の中でグローバル化していると感じていること についてグループで話し合い、どのような分野で強く感じるか をまとめる。 【ウ 歴史的意義の考察】 ○ グローバル化の進行による影響について各自考察し、ワー クシートに記入する。 【エ 発表・記述・論述】
2 時 間	オ 持続可能な社会 への展望	主体的な探求を通して、 現代社会の特質や課題 への認識を深め、持続可 能な社会の実現につい て考察し表現している。	○ 「3部 地球社会と日本」の1～4章で学習した内容を参 考にして、現代社会の特質や課題について主題を設定する。 【ウ 歴史的意義の考察】 ○ 歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果をA4判 1枚程度で論述する。 【エ 発表・記述・論述】

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位
----	----	----	-----	-----	-----

1 科目の目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

3 年間指導計画作成のねらい

- 数学的な活動の中で留意すべき項目として、「ア 情報の読み取り」から「オ 比較・検討」までの活動を例示しました。これらを、段階を追って繰り返し指導していくことを通じて、多面的・発展的に物事を考える力を育てていきます。年間の計画として、各単元の代表的な活動を例示しましたが、こうした言語活動を日々の授業に取り入れていく参考としてください。
- 各単元の言語活動では、まず「ア 情報の読み取り」、「イ 問題解決の立案」及び「ウ 適切な記述」を行わせ、次に、「エ 数学的な説明」や「オ 比較・検討」の活動を、それぞれ段階を追って行わせませす。年間を通じて、「ア 情報の読み取り」から「オ 比較・検討」までの活動を繰り返し指導します。

4 活動の分類の説明

【ア 情報の読み取り】	文章、数式、図、グラフ等から、必要な情報を正しく読み取る活動
【イ 問題解決の立案】	帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して、問題解決の筋道を立てる活動
【ウ 適切な記述】	自身の考えを、数学的根拠を明確にし、適切に記述する活動
【エ 数学的な説明】	自身の考えや思考過程を、数学的な表現を用いて、説明する活動
【オ 比較・検討】	相手の考えを聞き、自身の考えと比較することにより、相違点を見出しより良い考え方を導く活動

5 年間指導計画例

単元（題材）		「数学的な見方や考え方」の評価規準	言語活動【活動の分類】
13時間	式の展開と因数分解	いろいろな式の見方を考え、計算方法を工夫することができる。	展開や因数分解の計算問題（演習） ○ 個人で解答を作成し、指名された生徒が板書する。 【イ 問題解決の立案・ウ 適切な記述】 ○ 指名された生徒は、クラス全体に自身の解答を説明する。ほかの生徒は、疑問点や間違っている箇所、別解などを質問・発表する。 【エ 数学的な説明・オ 比較・検討】
8時間	実数	数を拡張してきた過程を考察し、数学の有用性を認識することができる。	開平法に関するレポート ○ 図書館等の資料を探して開平法について調べる。 【ア 情報の読み取り】 ○ 具体例を実際に計算し、レポートにまとめる。 【ウ 適切な記述】
8時間	一次不等式	不等式の性質を基にして、一次不等式を利用した、身近な問題を解決することができる。	一次不等式の文章題（問題づくり） ○ 日常生活における具体的な場面が想定されるような、一次不等式を利用した応用問題を作り、グループの中でお互いに解き合う。 【イ 問題解決の立案・ウ 適切な記述】 ○ グループで一つの問題を取り上げ、図や表を利用し解答・解説を完成させ、全体に発表する。 【エ 数学的な説明・オ 比較・検討】
11時間	集合と論理	事象を命題として表現し、論理的に考察することができる。	解答の吟味 ○ ある命題について、その真偽を示した解答を読み、解答内容が正しいか否か判断する。 【ア 情報の読み取り・エ 数学的な説明】 ○ グループでお互いの考えを共有し、解決を図る。 【オ 比較・検討】

単元 (題材)		「数学的な見方や考え方」の評価規準	言語活動【活動の分類】
12時間	二次関数	二次関数とそのグラフ	二次関数のグラフの平行移動 ○ x と y の対応表に基づいて、平行移動された方程式の意味を考える。 【ア 情報の読み取り・イ 問題解決の立案】
6時間		二次関数の最大・最小	軸や定義域が変化する場合の最大値・最小値 ○ 軸が移動していく様子から、場合分けを考える。 【イ 問題解決の立案】 ○ その分かれ目となる個所を、軸と定義域の関係で捉え、まとめる。 【ウ 適切な記述】
12時間		二次方程式・二次不等式	二次関数のグラフと x 軸の位置関係を二次方程式の解に対応させて考察することができる。 二次方程式が実数解を持つための条件を考える ○ 二次関数のグラフと x 軸の位置関係に対応させて考えて、ワークシートに記述する。 【ア 情報の読み取り】 ○ グループでお互いの考えを共有し、解決を図る。 【イ 問題解決の立案】 ○ クラスを二つに分けて、それぞれ別の問題に取り組んだ後、初めて問題を聞く生徒に分かりやすく説明する。 【エ 数学的な説明・オ 比較・検討】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> pp. 19-24 「4 数学・数学 I の実践事例」 参照 </div>			
12時間	図形と計量	三角比	教室の天井の高さを求める ○ 分度器に重りを吊り下げた角度測定器を使い、自分の座席から教室の天井の隅を見上げて角度を測り、巻尺で測定した水平距離を基に天井の高さを求め、結果を発表する。座席の位置がちがっても、同じ高さが求められることが分かる。 【ア 情報の読み取り・エ 数学的な説明】 ○ この方法を応用して、地球から月までの距離を求める方法を考察する。 【イ 問題解決の立案・ウ 適切な記述】
8時間		図形の計量	図形の軽量の文章題 (問題づくり) ○ 建物の高さや花壇の面積など、具体的な事柄について正弦定理または余弦定理を使って解く応用問題を作り、グループの中でお互いに解き合う。 【イ 問題解決の立案・ウ 適切な記述】 ○ グループで一つの問題を取り上げ、図や表を利用し解答・解説を完成させ、全体に発表する。 【エ 数学的な説明・オ 比較・検討】
15時間	データの分析	散布図および相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。	統計データの分析 ○ 総務省統計局ホームページに掲載されている家計調査に関する統計データを用い、月または季節と支出額の相関がありそうな品目を予想する。 【ア 情報の読み取り・イ 問題解決の立案】 ○ 品目別・月別統計の表を用いて散布図を作り、予測した相関についてグループで考察し、発表する。 【ウ適切な記述・エ 数学的な説明・オ 比較・検討】

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2単位
----	----	----	------	-----	-----

1 科目の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 年間指導計画作成のねらい

- 思考力・判断力・表現力等を育成するために、観察や実験などの結果を分析し解釈して考察させた上で、それらを表現させる学習活動を充実させることが大切です。
- そのために、科学的な検証方法を継続的に繰り返し取り入れてあります。ここでは、科学的な検証方法の手順を、「ア 仮説の立案」、「イ 検証方法の検討」、「ウ 結果の予想」、「エ 数式による論証」及び「オ 論理的な推論」としています。各手順では、各自で思考したり、グループ等で相談・討論したり、記述したり、発表したりするという言語活動を取り入れてあります。

4 活動の分類の説明

【ア 仮説の立案】	仮説を立案するために、個人で考えたりグループで相談したりする活動
【イ 検証方法の検討】	仮説を検証するための方法を検討するために、個人で考えたりグループで相談したりする活動
【ウ 結果の予想】	仮説をもとに、実験の条件から結果を予想するために、個人で考えたりグループで相談したりする活動
【エ 数式による論証】	数式を用いて、仮説の内容や実験結果の解析を論理的に説明する活動
【オ 論理的な推論】	実験結果等から、結論や考察を論理的に導き出すために、個人で考えたりグループで相談したりして、結論を表現する活動

5 年間指導計画例

	単元 (題材)	「思考・判断・表現」の評価規準	言語活動【活動の分類】
8時間	(1) 物体の運動とエネルギー ア 運動の表し方 (ア) 物理量の測定と扱い方 (イ) 運動の表し方 (ウ) 直線運動の加速度	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動の基本的な表し方について考察し、考えを表現している。 物体が直線上を運動する場合の加速度について考察し、考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一定の時間間隔で落下させた、水滴の落下する様子の写真から、自由落下運動について考察する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 落下の速度を求める。 【エ 数式による論証】 (2) 自由落下について考察する。 【オ 論理的な推論】 ○ 水道の蛇口から水が途切れないように流し、蛇口からの距離と水流の太さの関係を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 水流の太さを推定する。 【エ 数式による論証】 (2) 水流の太さを測定する。
8時間	イ 様々な力とその働き (ア) 様々な力 (イ) 力のつりあい	物体に働く力のつり合いについて考察し、考えを表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペットボトルを半分に切って逆さにしたものにスーパーボールを入れて栓をし、上から水を入れ、ボールの動きを観察する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 実験の結果を予想する。 【ウ 結果の予想】 (2) スーパーボールに働く力について考察する。 【オ 論理的な推論】
8時間	(ウ) 運動の法則 (エ) 物体の落下運動	力と運動の関係について考察し、考えを表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 力学台車に一定の力を加え、力学台車の質量を変化させた場合について、加速度を測定し、運動の第2法則について考察する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 台車の運動時間から、加速度を求める方法について検討する。 【イ 検証方法の検討】 (2) 得られた質量と加速度との関係から、運動の法則を導き出す。 【オ 論理的な推論】

	単元 (題材)	「思考・判断・表現」 の評価規準	言語活動【活動の分類】
12 時 間	ウ 力学的エネルギー (ア) 運動エネルギーと位置エネルギー (イ) 力学的エネルギーの保存 エ 物体の運動とエネルギーに関する探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・運動エネルギーと位置エネルギーについて考察し、考えを表現している。 ・「物体の運動とエネルギー」に関する探究活動を行い、事象や結果を考察し、導き出した考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ高さの場所から同じ初速度で出発した二つの小球が異なるコースを通り、同じ高さの終点に到達するまでの時間差を観察する。 ・実験結果から、力学的エネルギーについて考察する。 【オ 論理的な推論】 ○ 凍った缶ジュースと凍っていない缶ジュースを傾けた板の上で静かに出発させ、どちらが先に一番下まで転がっていくかを観察する。 (1) 力学的エネルギーの保存の法則から、結果を予想する。 【ウ 結果の予想】 (2) 実験結果から、力学的エネルギーについて考察する。 【オ 論理的な推論】
7 時 間	(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 ア 熱 (ア) 熱と温度 (イ) 熱の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から考察し、考えを表現している。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について考察し、考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 透明なパイプにマシュマロを入れ圧縮させたり、膨張させたりして結果を観察する。 ・膨張させた場合の結果を予想する。【ウ 結果の予想】 ○ シリンダに綿を入れたピストンを圧縮した時の様子を観察する。 ・圧縮した場合の温度を算出する。【エ 数式による論証】
6 時 間	イ 波 (ア) 波の性質	直線状に伝わる波の基本的な性質について考察し、考えを表現している。	○ 波動の媒質の運動について考察する。水面に浮かぶ物体が、水面を伝播する波によって移動しないことから、媒質は移動しないことを考察する。 【オ 論理的な推論】
9 時 間	(イ) 音と振動	気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質について考察し、考えを表現している。	○ クントの実験により閉管の固有振動を求める。 (1) 振動の腹と節の位置から基本振動、3倍振動の波長を求める。 (2) 上記の実験を基に、5倍振動の波長、振動数を推測し、実験で確かめる。 【オ 論理的な推論】
5 時 間	ウ 電気 (ア) 物質と電気抵抗	物質の種類による抵抗率の違いについて考察し、考えを表現している。	○ 箔検電器の箔の開きによって物体に帯電した電荷の正負の判定を行う方法を考え、検証する。 (1) 検証方法を考える。 【イ 検証方法の検討】 (2) 結果から考察する。 【オ 論理的な推論】
3 時 間	(イ) 電気の利用	交流の発生、送電及び利用について考察し、考えを表現している。	○ マイクの原理を推測する スピーカーの原理からマイクの原理を推測し、組み立てて検証する。 【ア 仮説の立案】
3 時 間	エ エネルギーとその利用 (ア) エネルギーとその利用 オ 物理学が拓く世界 (ア) 物理学が拓く世界 カ 様々な物理現象とエネルギーの利用に関する探究活動	「様々な物理現象とエネルギーの利用」に関する探究活動を行い、事象や結果を考察し、導き出した考えを表現している。	○ 太陽電池に白熱電灯の光を当てたときの発電量を測定し、エネルギーの変換効率を測定する。 ・測定するための方法を考え測定する。 【イ 検証方法の検討】

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3単位
----	-----	----	--------------	-----	-----

1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 評価の観点の趣旨

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

3 年間指導計画作成のねらい

○ 「外国語表現の能力」を育成するために、読んだ内容に基づき、自分の考えを話したり、書いたりする表現活動を各単元に取り入れます。4技能のうち「ア 聞くこと」や「イ 読むこと」に関わる指導は従前と同様行います。その上で、学んで得た知識を活用し、「ウ 話すこと」や「エ 書くこと」を通じて発信することができる表現の能力の育成を目指します。1年のまとめとして、スピーチを行うことを目標としています。そのため、「ウ 話すこと」、「エ 書くこと」の言語活動を中心に、段階を追って繰り返し指導していただけるように年間指導計画を作成しています。

4 活動の分類の説明

【ア 聞くこと】事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
【イ 読むこと】説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。
【ウ 話すこと】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。
【エ 書くこと】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。
(文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 開隆堂 pp.13-15 より引用)

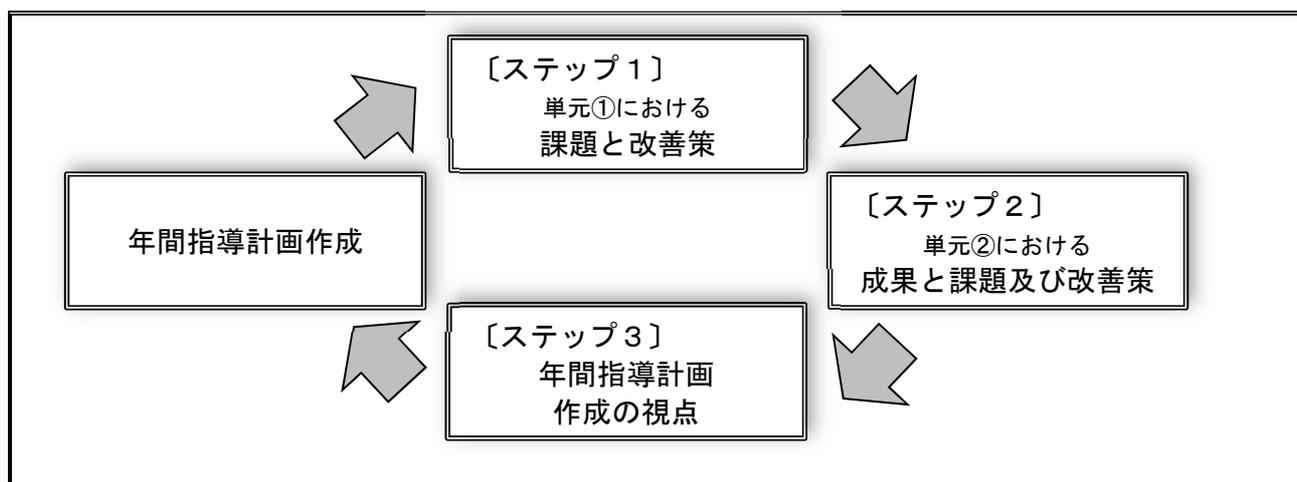
5 年間指導計画例 (表) = 「外国語表現の能力」、(理) = 「外国語理解の能力」

	単元 (題材)	単元における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の評価規準	言語活動【活動の分類】
8 時 間	Lesson 1 Communication around the world	英語で自己紹介をして、相手の質問に答えることができる。 (表)	○ 紹介する項目を示しておき、3～4名のグループになり、英語で自己紹介し、質問に答える。 【ウ 話すこと】
		英文を読み、語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に読み取ることができる。(理)	○ 異文化理解に関する英文を読み、キーワードを用いて20語程度の英語で要約する。 【イ 読むこと】
8 時 間	Lesson 2 Bento - Japanese Lunch Style	読んだ内容を踏まえ、その概要や自分の意見を話すことができる。(表)	○ 自分にとって理想の弁当を考えて、イラストにまとめ、説明する英文を書き、グループで発表し合う。 【ウ 話すこと】
		英文を読み、語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に読み取ることができる。(理)	○ 海外で人気の日本の弁当について取り上げた英文を読み、弁当がなぜ海外で人気なのかを、キーワードを用いて30語程度の英語で要約する。 【イ 読むこと】

	単元 (題材)	単元における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の評価規準	言語活動【活動の分類】
12 時 間	Lesson 3 My Dream for Future	人物に関する説明を読み、その内容について、口頭で要約することができる。(表)	○ 世界で活躍するスポーツ選手に関する英文を読み、キーワードを用いて20語程度の英語で要約する。 【ウ 話すこと】
		読んだことに基づき、自分の将来の夢を話すことができる。(表)	○ 生徒自身の将来の夢を話す。 【ウ 話すこと】
11 時 間	Lesson 4 Japanese Pop Culture	語句や表現、文法事項などの知識を活用して適切に書くことができる。(表)	○ 日本のアニメ、キャラクターなどを一つ選び、その紹介を30語程度の英語で書く。 【エ 書くこと】
		英文を読み、語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に読み取ることができる。(理)	○ 日本のポップカルチャーについて紹介した英文を読み、なぜ海外で日本のポップカルチャーに人気があるのか、30語程度の英語で要約する。 【イ 読むこと】
8 時 間	Lesson 5 A Letter from Mother	物語の内容を踏まえ、自分が感じたことやその理由を30語程度の英語で書くことができる。(表)	○ 物語を読み、感動した一節を抜き出して、自分が感じたことを30語程度の英語でまとめる。 【エ 書くこと】
		書いた内容を発表し、質問に答えることができる。(表)	○ 書いた内容を、ペアで発表し合う。 【ウ 話すこと】
12 時 間	Lesson 6 Grand Canyon-The World Heritage Site	自然環境に関する説明を読み、その内容について、口頭で要約することができる。(表)	○ 世界自然遺産に関する英文を読み、30語程度の英語で要約する。 【ウ 話すこと】
		読んだことに基づき、自分が行きたい世界遺産について口頭で話すことができる。(表)	○ 自分が行ったことがある(これから行きたい)世界遺産について紹介する。 【ウ 話すこと】
12 時 間	Lesson 7 Japanese Tradition	日本の伝統的な行事や品物などについて、要点が明確な50語程度の文章を書くことができる。(表)	○ 日本の伝統的な行事や品物などを一つ選び、50語程度の英語にまとめ、グループで紹介し合い、グループで一つを選び、クラスで発表する。 【ウ 話すこと】
		読んだ内容を平易な表現に置き換えたり、情報の順番を変えたりして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。(表)	○ 日本の伝統文化を紹介した英文を読み、50語程度の英語で要約する。 【エ 書くこと】
9 時 間	Lesson 8 A Message from <i>Osamu Tezuka</i>	読んだことに基づき、その人の生き方について、自分の意見やその理由を書くことができる。(表)	○ 自分がその人の生き方に共感できる場所、共感できないところを考え、メッセージから感じたことなどを80語程度の英語にまとめる。 【エ 書くこと】
		読んだことについて、その概要を話すことができる。(表)	○ 世界で活躍している作家や科学者などの生き方から、メッセージを読み取り、50語程度の英語で要約し、発表する。 【ウ 話すこと】
10 時 間	Lesson 9 Environmental Problems	環境問題に関するレポートを英語で発表することができる。(表)	○ インターネットなど資料を調べ、個人で環境問題に関するショートレポートを作成し、グループで発表する。 【ウ 話すこと】
		読んだことについて、その概要を話すことができる。(表)	○ 環境保護に関する英文を読み、筆者の主張を捉え、50語程度の英語に要約し、発表する。 【ウ 話すこと】
15 時 間	Lesson 10 The Power of Words	読んだことに基づき、「自分がクラス(または学校・クラブなど)にできること」という題で100語前後の英語でまとめ、話すことができる。(表)	○ 「自分がクラス(または学校・クラブ・家族・地域など)にできること」という題で100語前後の英語にまとめ、クラスでスピーチをする。 【ウ 話すこと】
		読んだ内容を平易な表現に置き換えたり、情報の順番を変えたりして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。(表)	○ 世界のリーダーと言われる人のスピーチを読み、100語程度の英語で要約する。 【エ 書くこと】

終章 これからの指導に向けて

本冊子では、年間を通じて、計画的・継続的に言語活動の充実を図るための工夫として、言語活動を位置付けた実践事例をまとめ、それを基に年間指導計画例を作成し、提示しました。この年間指導計画例の作成に当たっては、次の三つのステップを考えました。



〔ステップ1〕：単元①で明らかになった課題を踏まえ、改善策として単元計画や学習指導を工夫しました。

〔ステップ2〕：〔ステップ1〕での改善策に基づき、単元②において実践を行い、成果と課題を明らかにしました。また、新たな課題の改善策についても考えました。

〔ステップ3〕：〔ステップ1〕から〔ステップ2〕を行う中で、年間指導計画作成の視点として、「段階を追って力を身に付けさせる」、「繰り返すことで慣れさせる」という二つの視点を考えました。

こうした三つのステップを経て、言語活動を位置付けた年間指導計画例を作成しました。この年間指導計画例は〔ステップ1〕～〔ステップ3〕を繰り返す中で、学校や生徒の実態を踏まえて、見直しをする必要があります。各学校では、年間指導計画作成の視点や学校の実態や生徒の状況を踏まえて、計画的・継続的に言語活動の充実を図る授業を実践し、思考力・判断力・表現力等の育成を目指してください。

各学校で授業実践の課題を見だし、改善策を考えるためには、教科等の組織で取り組むことが有効です。組織で取り組むことによって、課題や改善策を共有することができますし、様々な指導の工夫を生かすこともできます。本冊子の実践事例を参考にして、各学校において、組織的な授業改善の推進を一層図ってください。

なお、本冊子における言語活動の充実を図る実践の成果として、「理解が深まった」、「知識が定着した」、「より理解が深まる」や「興味・関心が高まる」といった生徒の感想もあり、言語活動の充実を図ることは、思考力・判断力・表現力等の育成だけでなく、学力の3要素である基礎的・基本的な知識・技能の習得や、主体的に学習に取り組む態度の育成にも役立つことがうかがえました。

21世紀の変化の激しい社会において、次代を担う子どもたちに、変化に対応する能力や資質を身に付けさせることは、高等学校教育の使命であると言えます。こうした能力や資質を身に付けさせるために、計画的・継続的に言語活動の充実を図るための更なる取組みを行ってください。

1

引用文献

本冊子のページ	文献名	文献のページ
1 ページ	神奈川県教育委員会 2011 「平成 23 年度 神奈川県立高等学校学習状況調査報告書」	4～5 ページ 15 ページ
2 ページ 3 ページ	中央教育審議会答申 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm (URL は 2013 年 3 月取得)	21 ページ 25 ページ
2 ページ 3 ページ 4 ページ	文部科学省 2012 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genngo/1322283.htm (URL は 2013 年 3 月取得)	1 ページ 7～9 ページ 11 ページ
4 ページ	神奈川県立総合教育センター 2012 「＜高等学校＞言語活動の充実を図る実践事例集」 http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/ (URL は 2013 年 3 月取得)	4～5 ページ
6 ページ	神奈川県立総合教育センター 2012 「高等学校初任者のための授業づくりガイド 平成 24 年度版」 http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/ (URL は 2013 年 3 月取得)	35～36 ページ
41 ページ	神奈川県教育委員会 2013 「学習評価の手引き」 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f460124/ (URL は 2013 年 3 月取得)	10 ページ
42～43 ページ 45 ページ 47 ページ 49 ページ 51 ページ	国立教育政策研究所教育課程研究センター 2012 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』 教育出版	国語・・・40 ページ 地理歴史・36 ページ 数学・・・33 ページ 理科・・・24 ページ 外国語・・・25 ページ
43 ページ	文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 教育出版	57～59 ページ
51 ページ	文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 開隆堂	13～15 ページ

2

参考文献

本冊子のページ	文献名
1 ページ	文部科学省 2010 「学力向上に関するこれまでの施策と PISA2009 の結果」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/07032813.htm (URL は 2013 年 3 月取得)
1 ページ	国立教育政策研究所 2012 「平成 24 年度全国学力・学習状況調査の結果について（概要）」 http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.htm (URL は 2013 年 3 月取得)
53 ページ	神奈川県教育委員会 2012 「組織的な授業改善に向けて～高等学校における授業研究の取組～」 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f430713/ (URL は 2013 年 3 月取得)

『高等学校における言語活動の充実に向けて
 ー 言語活動を位置付けた年間指導計画例の作成 ー』
 の作成関係者

<調査研究協力員>

所 属	職 名	氏 名
神奈川県立舞岡高等学校	教 諭	磯部忠一郎
神奈川県立舞岡高等学校	教 諭	岡安 一壽
神奈川県立横浜国際高等学校	教 諭	横谷 英海
神奈川県立横浜栄高等学校	教 諭	桐谷 鋼哉
神奈川県立横浜栄高等学校	教 諭	長沼 純代

<神奈川県立総合教育センター>

所 属	職 名	氏 名
教育課題研究課	指導主事	逸見 直子
教育課題研究課	指導主事	伊藤 孝和
教育課題研究課	教育指導員	結城 卓彦
教育課題研究課	教育指導専門員	藤井 幹夫
企画広報課	副主幹（兼）指導主事	西村 正広
教職キャリア課	指導主事	倉田 慎一
教育課題研究課	指導主事	峰 治

※1

※2

※1 神奈川県立住吉高等学校総括教諭

※2 神奈川県立厚木高等学校教諭

高等学校における言語活動の充実に向けて
 ー 言語活動を位置付けた年間指導計画例の作成 ー

発 行 平成 25 年 4 月
 発行所 神奈川県立総合教育センター
 〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
 電話 (0466)81-1659 (教育課題研究課 直通)
 ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

※本冊子については、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

善行庁舎
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
TEL (0466) 81-0188
FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

亀井野庁舎（教育相談センター）
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4
TEL (0466) 81-8521
FAX (0466) 83-4500

